

(仮称)太田PA&SIC周辺整備事業

基本構想書



平成27年2月

太田市

目次

はじめに

第1章 これまでの経緯

- 1-1. 太田 PA 及びスマート IC 設置..... 1
- 1-2. 目的と整備効果 1

第2章 太田 PA 及びスマート IC 周辺整備の方向性

- 2-1. 立地と周辺環境..... 2
- 2-2. 周辺整備の方向性..... 3

第3章 導入エリアの設定

- 3-1. 整備コンセプト..... 4
- 3-2. 導入エリアの設定..... 4

第4章 整備方針及び想定ゾーンの設定

- 4-1. 整備方針 5
- 4-2. エリア内想定ゾーン..... 5

第5章 今後の課題（整備手法等） 6

資料編.....7～8

はじめに

北関東自動車道は、関越自動車道（高崎JCT）起点とし、群馬県、栃木県、茨城県の主要都市を經由して茨城港を結ぶ延長約150kmに及ぶ高速道路であり、北関東の総合的な発展を支える基盤施設

として、流通の根幹として機能し、高速交通のネットワークを形成している。

太田市においては延長約13.9kmが市内北部を横断し、北東部に太田桐生IC、また北西部に太田藪塚ICが設置されている。



こうしたなか、IC間（約11km）の中間付近である北金井町地内に平成25年6月、市内3つ目となるインターチェンジの整備計画が決定した。

このインターチェンジは、隣接して整備される休憩施設（パーキングエリア）の接続型であり、周辺施設と一体的に整備することで、利用者へのサービス向上と地域活性化に大きな役割を果たすものとして、そのポテンシャルが注目されている。

また、インターチェンジの整備は、企業立地を促進し、就業機会や所得の増加など地域経済の浮揚や定住人口の増加につながる地域振興の核として、各方面から大きな期待が寄せられている。

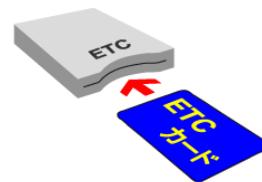
これらを背景とし、本計画は、北関東自動車道の利用者や太田市及び周辺地域にとって、より付加価値の高い周辺土地利用の基本構想を取りまとめたものである。

第1章 これまでの経緯

1-1. (仮称)太田 PA 及びスマート IC の設置

(仮称)太田 PA については、平成 8 年に策定した「(仮称)太田 SA 周辺整備基本構想」において、八王子丘陵に代表される豊かな自然が、高速道路利用者に潤いや安らぎを与えるには最も適した地であることから現在の計画地を決定し、国や道路公団(当時)に対して誘致を進めてきた。その後も国の「SA・PA を活用した地域拠点整備事業」の指針に基づき設置計画を推し進めた結果、平成 12 年に「太田 PA 設計協議確認書」の調印に至った。しかしながら整備に至っては、高速道路の「建設コスト縮減計画」の見直し措置として、事実上の「整備凍結」の対象とされた。こうしたなか平成 23 年 3 月 19 日、北関東自動車道の全線供用が開始された。

一方、(仮称)太田スマート IC については、平成 21 年から始まった国の「高速道路利便増進事業」であるスマートインターチェンジ制度実施要項に従い、太田桐生 IC と太田藪塚 IC 間の約 10.6 km の中間付近にスマート IC の設置を検討してきた。結果、平成 25 年 6 月 11 日付けで(仮称)太田 PA 事業の再開と共に市内 3 つ目となるインターチェンジの計画が決定された。



1-2. 目的と整備効果

「SA・PA を活用した地域拠点整備事業基本計画」(平成 12 年)で、住民のための“憩いの場の創出”と高速道路利用者の“利便性向上”に向けた周辺整備の基本的な方向性と整備方針等が示された。また「(仮称)太田スマート IC 実施計画書」(平成 25 年 3 月 27 日提出)におけるスマート IC 設置により期待される整備効果は次のとおりである。

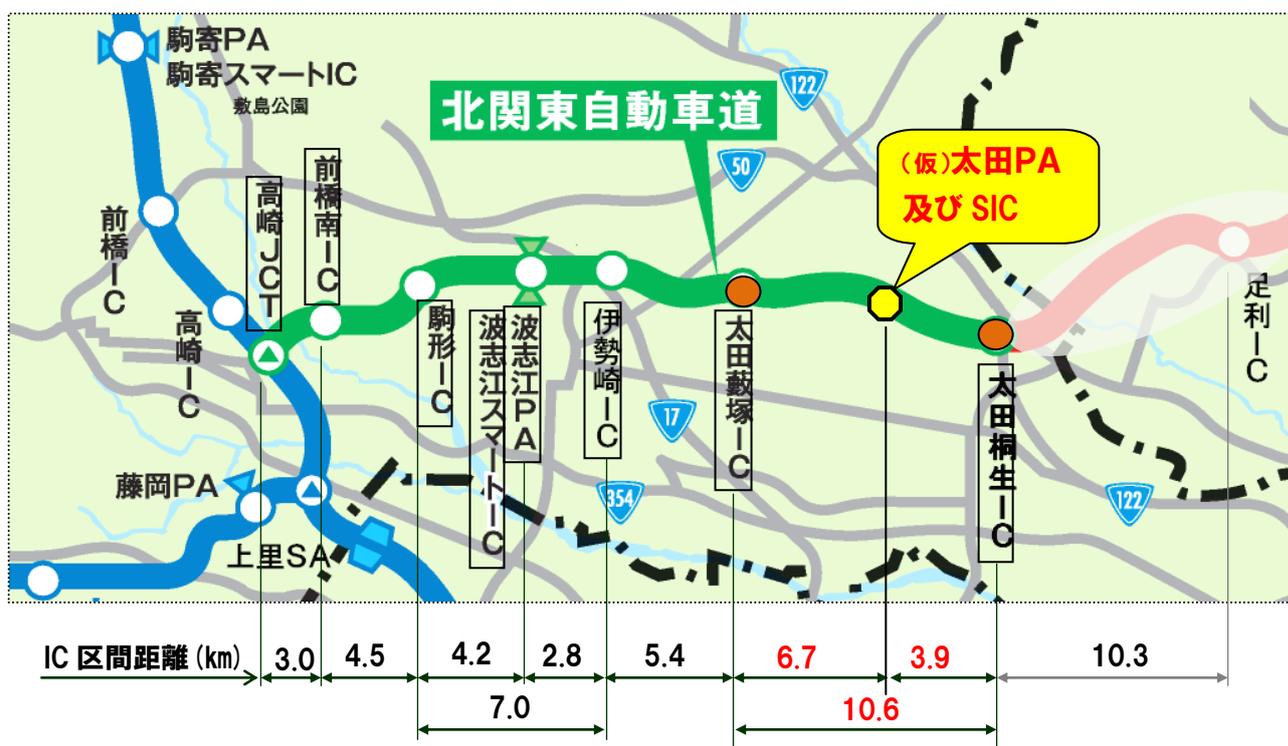
- 産業の活性化
- 観光振興の支援
- 救急医療活動の支援
- 防災上の向上
- 高速道路利用圏域の拡大



第2章 太田PA及びスマートIC周辺整備の方向性

2-1. 立地と周辺環境

太田PAは、波志江PAから14.6km、出流原PAまで20.7km、太田スマートICは、太田藪塚ICから6.7km、太田桐生ICまで3.9kmに位置する。計画地は、八王子丘陵に囲まれるなか、既存集落や田園が広がる里山然とした風景が形成されている。周辺には北部運動公園やゴルフ場など観光・レジャー施設が集中する。PA及びICの西側は群馬県による「石田川流域調整池」が整備される予定である。



【太田PA設計概要 [平成12年当初]】

[型式] : 片側集約による橋梁型式

- 本線北側(下り線側)に上下線休憩施設を集約するため、上り線ランプは橋梁により本線を跨ぐ形式)

[規模] : 総面積 5.9ha

- 駐車数[上下線共] : 普通車44台, 大型43台 上下総計174台分 : 面積2.3ha
- 利用園地面積 [上下線共] : 約0.4ha : 計0.85ha

2-2. 周辺整備の方向性

「SA・PAを活用した地域拠点整備事業基本計画」

- 住民のための“憩いの場の創出”
- 高速道路利用者の“利便性向上”

「太田市都市計画マスタープラン」

【全体構想】北関東自動車道及び周辺環境の整備

- 高速道路の持つポテンシャルを活かした地域開発
- 高速道路の利用を促進する地域開発

【地域別構想】

- 周辺の自然環境に配慮したパーキングエリアの整備

計画地及び太田PA・スマートICの特性

観光地やレジャー施設
が集中する地域に位置

八王子丘陵の豊かな自然
に囲まれている

上り方面における群馬
県最初のPA

大型車種が利用できる
スマートI.C.

市街地から最も近い
インターチェンジ

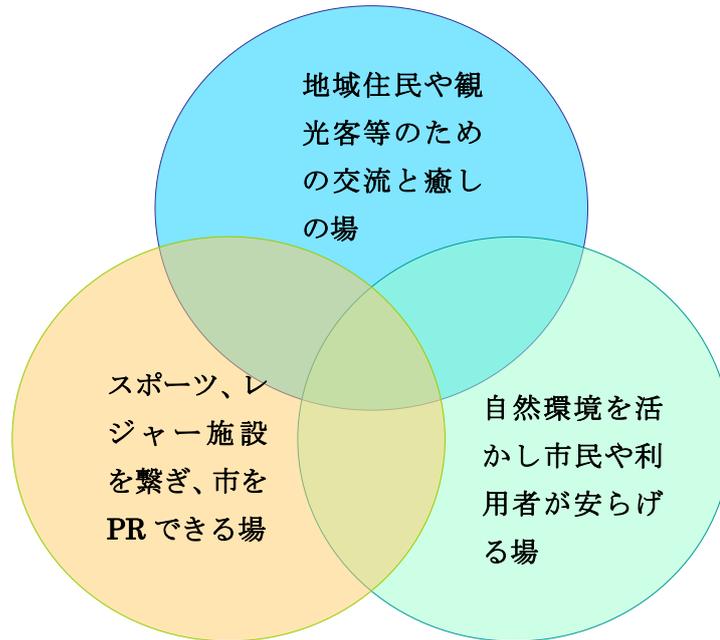
課題

利用者が滞留
でき、地域住民
と交流できる
施策

市のPR ととも
に“おもてなし”
を表現する
施策

自然環境との
調和を前提に
緑を活かした
施策

周辺整備の方向性



第3章 導入エリアの設定

3-1. 整備コンセプト

【おおたスマートIC周辺全体構想】コンセプト

おおた発！癒しの庭園

「丘の上のおもてなし空間」

「ようこそ太田市へ！“ホッと一息”心も体もリフレッシュできる空間を創造し提供する」というテーマを掲げ、豊かな自然に溶け込んだアットホームな癒しを満喫できるエリアを展開します。

3-2. 導入エリアの設定

《別紙のとおり》

第4章 整備方針及び想定ゾーンの設定

4-1. 整備方針

「導入エリアの設定」を踏まえ、（仮称）太田PA&SIC周辺開発の整備方針を次のとおりとします。

1. PA&SICと周辺施設を一体的に整備し、利用者へのサービス向上と地域活性化の役割を果たします。
2. 地域振興の核として、沿線の地域性や民間活力を活用して、地域や利用者にとってより付加価値の高い周辺開発の実現を目指します。
3. 恵まれた自然を活かし、自然(緑)と共生した拠点を形成します。

4-2. エリア内の想定ゾーン

以下の4ゾーンを想定するが、PAの整備計画や地域要望などを勘案し、柔軟に対応する。ゾーニングについては、今後、検討していく。

■ 「憩い」のゾーン

✚ 利用者や市民が憩える多目的広場として整備する。

子供やお年寄り、ペット連れの方たちの癒しの場として、さらに災害時の防災拠点としての機能も併せ持つ多目的広場を設置する。

■ 「癒し」のゾーン

✚ 住民や利用者のための休息と癒しの施設を整備する。

市内観光地や施設への案内、里山散策の基地（例えばウォーキングステーション）の役割を兼ね備えた施設等を整備する。

■ 「緑」のゾーン

✚ 自然や周辺環境を利用した空間を整備する。

自然散策路の整備をすすめ、利用者や市民が自然に親しめる場を提供する。

■ 「スポーツ広場」のゾーン

✚ インターチェンジの持つ機動力を活かし新たなスポーツ施設を整備する。

スポーツ施設を整備し、地域活性化の拠点となる場を創設する。

第5章 今後の課題（整備手法、管理、運営等）

地域や利用者の質的な向上を望む声に応え、沿線地域の自主性や民間活力を活用して「周辺整備」をすすめる必要から、以下の課題について検討します。

- PA内のネクスコ整備計画との整合
- 民間活力の導入と開発に伴う課題の研究
- 市民や地域住民、各種支援団体の参画方法の研究
- 利便性や集客に効果をもたらす施策や他団体との連携

参考図書

平成 8 年 (仮称) 太田 PA 周辺整備計画基本構想

平成 11 年 SA・PA を活用した地域拠点整備事業基本計画

上位計画

都市計画マスタープランから見た周辺整備は、以下のとおりとなっている。

「太田市都市計画マスタープラン」～抜粋

【全体構想】

●インター周辺産業業務拠点

工業、研究開発、流通及び商業施設など交通の利便性を活かした産業業務拠点となる地区とします。

●北関東自動車道及び周辺環境の整備

高速道路ネットワークに接続し、アクセス道路を整備するとともに、高速道路の持つポテンシャルを活かした地域開発を進めます。

○北関東自動車道のインターチェンジ周辺などに高速道路の効果を高めるために利用を促進する地域開発を進めます。

○北関東自動車道沿線は、産業集積の適地を群馬県で策定を進めている「(仮称)北関東ベルトゾーン開発構想」に最重点地区として位置づけし、産業の振興を推進します。

【地域別構想】

➤ 太田藪塚インターチェンジ

・北関東自動車道及びインターチェンジを活用し地域産業の振興により地域の活性化を図る。

➤ 太田桐生インターチェンジ

・太田桐生インターチェンジ周辺を中心に新たな工業用地の確保を検討し、工業機能や流通機能の集積を図る。

➤ (仮称)太田PA&SIC

・周辺の自然環境に配慮したパーキングエリアの整備が課題となっている。

市内のインターチェンジ

➤ 太田藪塚インターチェンジ

・伊勢崎ICから東へ5.4kmに位置し、県道大原境三ツ木線に連結する。北側は、みどり市や桐生市への玄関口となっている。南は新田北部工業団地があり、さらに南に

は伊勢崎市・境北部工業団地が存在する。

▶ 太田桐生インターチェンジ

- ・足利ICから西へ10.3kmに位置し、国道122号線に連結する。北側には国道50号線が走っており、太田流通団地やリサーチパーク、太田東部工業団地にアクセスする。太田市東部及び県東部はもとより、足利ICが市内北東部に位置するため足利市西部の利便性にも一役買っている。

参考

太田 PA・SIC 周辺の高速自動車道上の各施設間距離は以下のとおり（H26.10.1 現在）

◆ガソリンスタンド

施設間距離 **【166.2 km】**

関越・上里 SA～【35.8 km】**太田 PA**～【130.4 km】笠間 PA

◆レストラン（飲食関係等）

施設間距離 **【119.2 km】**

関越・上里 SA～【35.8 km】**太田 PA**～【83.4 km】壬生 PA

（※波志江 PA 上下線にコンビニあり）

